

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 大牟田市立橘中学校
 種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 所在地 〒837-0911
 大牟田市大字橘664番地1
 E-mail tachibana-js@st.city.omuta.fukuoka.jp
 Website <http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/tachibana-jh/>
 児童生徒数 男子 147 名 女子 126 名 合計 273 名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 本校のESDの特徴

本校の校区では、吉野地区まちづくり協議会とタイアップした吉野小学校の「桜プロジェクト」をベースに、校区の方々の協働がさかんに行われており、本校の活動も「総合的な学習の時間」を中心に特別活動や教科の学習において、持続可能な社会の構築に向けて様々な取組を行っている。地域の実態をふまえ、特に「福祉教育」「キャリア教育」の領域を中心とした学びをすすめている。

第1学年では、「福祉学習Ⅰ」として、絵本教室による認知症学習・高齢者疑似体験学習を核とした学習等、「進路学習Ⅰ」として、地域の人に学ぶ（職業人による講話等）、「環境学習」として、自然とのふれあい体験を核とした学習を行っている。第2学年では、「進路学習Ⅱ」として、地域の人に学ぶ（職場体験を核とした学習）、「世界遺産学習」を行っている。第3学年では、「福祉学習Ⅱ」として、地域の幼稚園・保育所等を訪問しての保育体験（幼児とのふれ合い体験）、「進路学習Ⅲ」として、マナー講座、キャリアマップ作成などを実施している。社会科では、「世界一大きな授業2016」にも参加した。

また、生徒会活動において、地域とつながるボランティア活動（プルタブ回収による車いす寄贈やペットボトルキャップ回収によるワクチン寄贈、東日本大震災被災地への募金活動など）や校区内小学校との交流活動（絵本の読み聞かせや環境美化活動～桜プロジェクト～等）、また地域の高校との交流活動（花壇整備や生徒会スローガン掲示物の制作等）にも取り組んでいる。

このように、本校は、各学年で福祉・キャリアに関する学習に系統的に取り組んでおり、大牟田市の福祉の現状を知り、生徒自らが自分にできること、しなければならないこと等を考え報告し合い、今後、行動できる生徒の育成を目指している。このような取組は、将来、大牟田市の福祉を担う人材育成につながると考える。また、本校のESDの取組（学習成果）をホームページに掲載し、情報の発信・共有を図っている。

また、PTA・地域活動の一環として、校内外の花壇整備や美化活動に取り組んでいる。これは、生徒の豊かな情操を育むとともに、環境保全にも関心を持たせるための活動である。昨年度からは、地域の高校生が花壇の土作りや花苗植えの実技指導を行うなど、本校生徒と高校生との交流も行い、中高連携を図っている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学年	内 容	時 期	領域
1 年	○自然体験学習を核とした環境についての学習	6月	総合的な学習の時間
	○認知症学習（絵本教室）や高齢者疑似体験等を核とした福祉についての学習	10～11月 10～11月	
	○地域の人に学ぶ（職業人による講話）	2月	
2 年	○地域の人に学ぶ（福祉関係等の事業所における職場体験学習）	6月	学習の時間
	○世界遺産学習（京都・奈良の自主研修、「大牟田の宝」の広報活動）	11～1月	
3 年	○世界で一番大きな授業	5月	時間
	○地域の幼稚園・保育所等を訪問しての保育実習（幼児とのふれ合い体験）	6月	
	○3年間の福祉に関する学習をまとめて地域に発信しよう	12～1月	
全学年	○校区美化活動・花壇整備（地域の高校生との交流）	通年	特別活動
生徒会活動他	○ボランティア活動（プルタブ・ペットボトルキャップ回収、募金活動） ○地域との交流活動（高校書道部との生徒会スローガン掲示物の制作における交流、吉野桜プロジェクトによる市制100周年植樹等）	通年	

3 特徴的な活動事例

【3年：地域の幼稚園・保育所等を訪問しての保育実習】(幼児とのふれ合い体験)

目標	<p>○働く人に接し、実際に職場で働く体験を通して自分を見つめ、自らの生き方を考え、今後の進路設計に役立てることができる。</p> <p>○保育現場を見学・体験することにより、少子高齢社会における社会福祉の考え方について理解するとともに、自分に何ができるのかを考えることができる。</p>
実際の展開	<p>①3年生がグループに分かれて、班や個人の目標を設定し、市内の幼稚園や保育所へ打ち合わせに行き、体験活動の注意事項、幼児とのふれ合い方、体験当日の交流活動の計画などについて、施設担当者と打ち合わせを行った。体験当日までは、主に「総合的な学習の時間」を使って交流活動の準備やリハーサルを行った。</p> <p>②保育体験当日は、幼児を迎え入れるところから始まり、1日を通して幼児と接した。職場の方々実際に幼児と接する姿を見て、福祉現場の状況を学ぶとともに、少子高齢社会において、自分に何ができるのかを考えた。</p>



▽保育体験実習のようす(校区内の幼稚園)

【生徒会活動における地域とつながる取組】

＜ボランティア活動＞

- 「ペットボトルキャップで世界の子どもにワクチンを届けようキャンペーン」に賛同し、キャップを回収して本部に送って、ポリオワクチン寄贈に協力している。
- 空き缶のプルタブを回収して換金し、車椅子を購入して市内施設や病院等に寄贈する取組を13年前から行っている。また、募金期間を決めたり、地域イベントの際などに募金活動を行ったりしながら、東日本大震災被災地、熊本地震に義援金として送金している。

＜地域（高校生や小学生など）との交流活動＞

- 地域の高校書道部（本年度は三池高校）の生徒等と共に、体育館ステージ用の掲示物（生徒会スローガン）を制作している。
- 地域のボランティア団体やありあけ新世高等学校の生徒・教職員の方と一緒に花壇整備を行うなど、地域の方との交流を積極的に行っている。
- 校区内小学校（吉野小・上内小）に図書委員が出向き、放送読書を行い、小学生との交流を図っている。また、吉野小学校の「桜プロジェクト」に賛同し、本校校庭に桜を植樹したり、小学校の取組をまとめた掲示物を中学校で紹介したりした。



△高校と共同制作の掲示物



△小学校と協働の桜の植樹

4 本年度の成果と課題

- 成果…各学年での福祉・キャリアに関する学習内容や目標を再度、見直し、発達段階をふまえた中学3年間の系統性や発展性を意識したカリキュラム編成に努め、教科や各領域等との関連を示した学年ごとのESDカレンダーを作成することができた。
- 課題…将来を担う人材を育てるという視点から、教師がそのことを意識しながら、様々な体験活動を核とした学習を計画・実施していく必要がある。「体験ありき」ではなく、その先の行動化や発信を意識した実践に努めていくことができるように職員研修を深める。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）